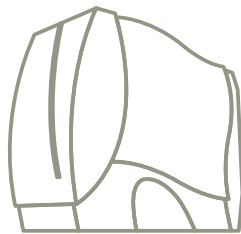


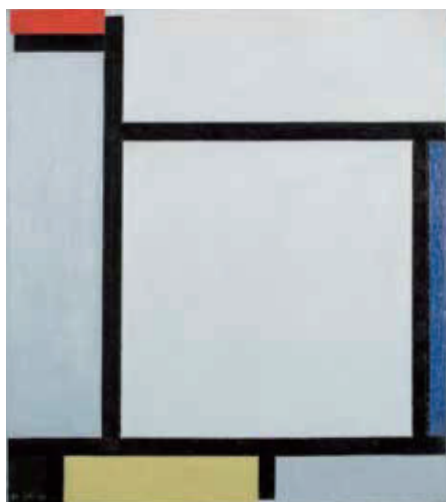
REPORT



2021

S o m p o M u s e u m o f A r t

2021年度は新型コロナウイルスの緊急事態宣言下に休業要請を受け、臨時休館を迫られた厳しい年度でした。そんなコロナ禍の中でも、春は「モンドリアン展」、夏は「風景画のはじまり展」、秋は「川瀬巴水展」、冬の公募展「FACE展2022」と過去3年間の受賞作家を再紹介する「絵画のゆくえ2022展」を開催し、アートランドマークとして文化芸術を発信させていただき、癒しの空間をお楽しみいただきました。本号では、そんなコロナ禍でしたが、美術館の活動をご報告いたします。



ピート・モンドリアン《赤、青、黒、黄、灰色のコンポジション》
1921年 油彩・カンヴァス 39.5×35cm デン・ハーグ美術館
Kunstmuseum Den Haag

本展は、20世紀絵画を代表する巨匠ピート・モンドリアン(1872-1944)の生誕150年を記念して開催されたもので、オランダ、デン・ハーグ美術館所蔵のモンドリアンによる作品50点を中心に、同時代の作家による作品などを合わせた計65点を展示しました。

モンドリアンは画業の初期から晩年まで多様な絵画表現を探究しました。若い頃は、灰色がかかった色調の風景画を描いていましたが、次第に象徴主義や神智学への関心を反映して、鮮やかな色彩と、より大胆な筆触を用いるようになります。さらにキュビズムの

生誕150年記念

モンドリアン展

純粋な絵画をもとめて

表現を取り入れ、普遍の真理や精神性を表現する方法を追求した結果、水平線と垂直線、三原色の色面のみで構成される独自の抽象絵画を確立しました。本展では、日本で見る機会の少ない初期作品から、後年の作品までを時系列的に展示することで、一連の作風の変化をご紹介します。

また、モンドリアンの提唱した芸術理念「新造形主義」は、芸術家グループ「デ・ステイル」の基本理念となり、デザインや家具などに広く応用されました。本展では、「デ・ステイル」に関連する作家たちによる絵画と椅子も併せて展示し、モンドリアンによる芸術的探究が同時代の美術動向に及ぼした影響を再検証しました。

会期中に緊急事態宣言が発令されたことにより、4月後半から5月末日まで一時休館しましたが、会期最終週は再開し、盛況となりました。本展は予定日数の約半分である35日間の開催となりましたが、最後の3日間は入場券が完売になるなど、多くの方々からご期待と反響をいただきました。

【展覧会データ】

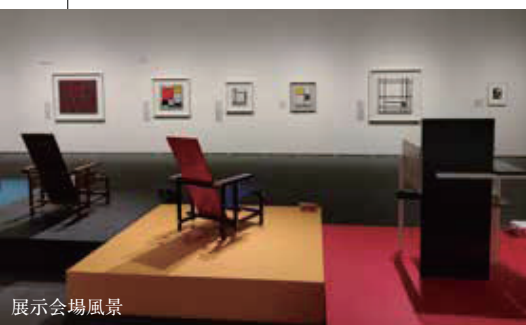
展覧会名 | 生誕150年記念 モンドリアン展
純粋な絵画をもとめて
会 期 | 2021年3月23日(火)～6月6日(日)
主 催 | SOMPO美術館、日本経済新聞社
協 賛 | 損保ジャパン、野崎印刷紙業
後 援 | オランダ王国大使館
協 力 | KLMオランダ航空
企画協力 | NTVヨーロッパ



ピート・モンドリアン《色面の楕円コンポジション2》1914年
油彩・カンヴァス 113×84.5cm デン・ハーグ美術館
Kunstmuseum Den Haag

コロナ対策・対応など

安心・安全に鑑賞いただく環境を提供する為に、新型コロナウイルスと戦った一年でした。来館者には、もう当たり前となってしまった「マスク」「検温」「消毒」実施を徹底していただき、日時指定による入場制限で三密を避け、安心して鑑賞いただきました。



展示会場風景

FACE 2022 グランプリ

新藤杏子 Kyoko Shindo 《Farewell》



1982年生まれ 東京都在住
2004年 トーキョーワンダーウォール 入選(～08年)
2006年 シェル美術賞展2006 入選(09, 17年)
2007年 多摩美術大学大学院美術研究領域絵画専攻修了
2010年 個展「a transient apartment」(TRINITY・東京)(11年)
「GEISAI TAIWAN #2」 審査員賞
2011年 「GEISAI TAIWAN #3」(華山創意園区・台北)
Young Artist Japan 2011 特別審査員賞
(ラフォーレミュージアム)
2012年 「Opening Exhibition」(YUKI-SIS・東京)(13, 21年)
個展「Beautiful Life」(YUKI-SIS・東京)(14, 15, 21年)
2014年 FACE展2014 入選(17年)
2020年 KAIIKA HOTEL OPEN CALL 大賞



《Farewell》2021年 油彩・キャンバス 162×194.5cm

10 回目となるFACE2022は、昨年から25歳以下の出品料を無料にしたことで若手出品者が増え1,142作品が出品されました。三次に及ぶ入選審査では、個人情報(作者名、作品名、年齢、性別、所属など)を伏せた作品本位の審査が行われ、審査員が作品1点ずつ真摯に対峙し、挙手で入選作品83点を決定しました。入選者は女性45名、男性38名、平均年齢36.9歳。

グランプリ受賞者の新藤杏子さんは、2014年と2017年にも入選され、3度目の出品でグランプリを獲得されました。これまでは水彩とアクリル絵具の肖像画が多かったのですが、今回は油彩で精緻な風景の中に人物を配するなど画風も大きく変わりました。オウィディウスの『変身物語』に登場する美少年ナルキッソスをテーマに描いています。ご自身の子息が鏡に写る自己に見とれていたことから、このテーマを選ん

だようです。自己を認識し、他者を意識し成長していく様子を捉えています。「これまでの価値観に別れを告げ、新しく思考を変化させて再生していく」ことを願い制作されました。

【展覧会データ】

展覧会名 | FACE展2022
会 期 | 2022年2月19日(土)～3月13日(日)
主 催 | SOMPO美術館、読売新聞社
協 賛 | 損保ジャパン
後 援 | 新宿区

主な作品貸出協力

生誕160年記念
グランマ・モーゼス展
—素敵な100年人生

20 21年4月に大阪で開催した展覧会「グランマ・モーゼス展—素敵な100年人生」に、当館が収蔵するグランマ・モーゼスの作品10点が出品されています。本展は2022年春まで全国を巡回します。

【展覧会データ】

2021年4月17日～6月27日 あべのハルカス美術館
2021年7月10日～9月5日 名古屋市美術館
2021年9月14日～11月7日 静岡市美術館
2021年11月20日～2022年2月27日 世田谷美術館
2022年4月12日～5月22日 東広島市立美術館

令和3年度 鳥取県立博物館企画展

コレクション・マリアージュ: SOMPO美術館×鳥取県立博物館
東郷青児と前田寛治、ふたつの道



鳥 取県立博物館が当館と損保ジャパンのコレクションから東郷青児の作品16点とゴーギャンほかフランスの作品29点を選び、同博物館の前田寛治らの作品約50点と組み合わせ、東郷・前田の「パリ」体験を切り口に紹介しました。

【展覧会データ】

会 期 | 2021年11月20日(土)～12月26日(日)
会 場 | 鳥取県立博物館
主 催 | 東郷・前田実行委員会(鳥取県立博物館、山陰中央テレビジョン放送株式会社)
特別協力 | SOMPO美術館、損保ジャパン
協 賛 | 日本通運、モリックスジャパン、吉備総合電設、三和商事、鳥取県情報センター



SOMPO美術館
Sompomuseum of Art

この街には、《ひまわり》がある。

Twitter
公式アカウント



@sompomuseum

Instagram
公式アカウント



@sompomuseum

ホームページ

https://www.sompo-museum.org/

お問合せ先
ハローダイヤル

050-5541-8600

SOMPO美術館レポート No. 49

発行日 | 2022年3月(年1回発行)

編集・発行 | 公益財団法人 SOMPO美術財団

〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1

デザイン | 若林純子

印刷 | 大城印刷株式会社



川瀬巴水《芝増上寺》東京二十景 1925(大正14)年
木版・紙 36.1×24cm 渡邊木版美術画舗蔵

【展覧会データ】

展覧会名 | 川瀬巴水 旅と郷愁の風景
会 期 | 2021年10月2日(土)～12月26日(日)
前期: 10月2日(土)～11月14日(日)
後期: 11月17日(水)～12月26日(日)
主 催 | SOMPO美術館、毎日新聞社
協 賛 | 損保ジャパン
監 修 | 岩切信一郎(美術史家)
特別協力 | 渡邊木版美術画舗
資料提供 | 大田区立郷土博物館
企画協力 | ステップ・イースト

大正・昭和に活躍した版画家、川瀬巴水(1883-1957)は、旅をこよなく愛し、庶民の暮らしが息づく四季折々の風景を描き続けました。生前から「旅情詩人」とも呼ばれ、その诗情豊かな風景画は、国内外で広く人気を博しました。



展示会場風景

川瀬巴水 旅と郷愁の風景

洋画修業を経て日本画家の鏗木清方に師事していた巴水は、35歳のときに同門の画家、伊東深水の木版画に感銘し、版画制作に意欲を燃やします。深水の版画を手がけた版元、渡邊庄三郎は、絵師・彫師・摺師による浮世絵の分業体制を継承しながら、絵師の個性や芸術性をより尊重する「新版画」を推進していました。巴水と庄三郎の思いは重なり、巴水の堅実な写実と抒情的な感性が、伝統的な木版の技と融合します。以後、巴水は生涯の約40年間、庄三郎のもとで風景木版画の代表絵師として新版画を牽引しました。

本展は、巴水の生涯にそって時系列的に組み立て、版画を始めた大正期の第1

章、関東大震災を経て作風が変化した時期の第2章、太平洋戦争前後から晩年までの第3章という流れで展示しました。最後のコーナーでは、新版画、とりわけ巴水を好んだアップル・コンピュータの創業者スティーブ・ジョブズを例に、巴水の作品が現代でもなお、国境を越え愛され続けていることを紹介しました。

見どころとして、全体で600点以上に及ぶ巴水の木版画の中から、まとめて見る機会の少ない連作を中心に構成、会期半ばで約90点を入れ替え、計約280点を展示しました。さらに、写生帖、版木、順序摺、遺品、制作の記録映像等を資料として揃え、旅の版画家、川瀬巴水の神髄を展観する大回顧展となりました。

絵画のゆくえ2022

「年齢・所属を問わない」新進作家の登竜門としてのFACE展は、その年に輝く俊英たちを発掘する平面作品の公募展です。毎年、10数倍の関門を通過した入選作品の中から、厳正な審査で「グラン



魏嘉《sweet potato》2020年
パステル・スプレー・エアブラシ・キャンバス 130.3×162cm

プリ」、「優秀賞」が選ばれます。本展は、FACE2019からFACE2022までの3年間に受賞した12名の新作・近作109点を展示し、受賞者たちの受賞後の展開を紹介することで絵画の趨勢を探ります。

12名の内訳は、油彩・アクリル画10名、日本画1名、蒔絵1名で、女性8名、男性4名となっています。FACEの受賞者たちの活躍には目を見張るものがあり、その後の様々な展開へとつながっているようです。

FACEの審査は「真に力があり将来国際的にも通用する可能性を秘めた作品」を見出すことです。現代美術展を隈無く見ている審査員たちの鑑識眼により選出された作家たちは、本展への出品に向けて、その期待に応えるべく鋭意努力を重ねてきました。出品作家たちの新たな挑戦を受け止めることで、絵画のゆくえを感じる展覧会となりました。

【展覧会データ】

展覧会名 | 絵画のゆくえ2022 FACE受賞作家展
The Way of Paintings 2022
—FACE Award Winners
会 期 | 2022年1月14日(金)～2月13日(日)
主 催 | SOMPO美術館、読売新聞社
協 賛 | 損保ジャパン



庄司朝美《18.10.23》2018年
油彩・鉛筆・アクリル板 200×170cm



クロード・モネ《ベリールの岩礁》1886年 油彩・カンヴァス
65.6×81.5cm Inv. 907.19.191 ランス美術館
©MBA Reims 2019/ Photo: C.Devleeschauwer

ランス美術館コレクション 風景画のはじまり コローから印象派へ

然を前にした自己の感覚や内面を投影しながら風景を描くようになります。「近代風景画」の誕生です。「風景画のはじまりコローから印象派へ」と題した本展では、19世紀風景画の充実したコレクションを誇るランス美術館の作品を中心に、油彩、版画など約80点を通じて、フランス近代風景画の成立と展開の歴史をたどりました。

展覧会は、年代順に5つの章で構成し、近代風景画の先駆者ミシャロン、コロー、ドービニーやトロワイオンをはじめとするバルビゾン派、ブーダン、そし

てモネやピサロなどの印象派に至るまで、日本でも人気の高い19世紀の名だたる巨匠たちの共演となりました。とりわけ、初期のローマ滞在期から詩情あふれる独自の画風を確立した円熟期までを概観できる16点のコロー作品や、ノルマンディーの多様な空模様と陽光への鋭敏な観察眼が発揮されたブーダン作品7点は、本展の大きな見どころとなりました。また、風景画発展の背景や当時の風景画受容のあり方をより深く理解する助けとして、戸外制作を推奨したヴァランシエンスによる理論書などの資料、風景画家自らが制作した版画26点もあわせて紹介しました。

本展は、コロナ下の開催ながら臨時休館することなく、開幕を迎えることができました。



展示会場風景

巨匠たちが描いた数々の風景画を通じ、つかの間、光と風を感じながらフランス各地を巡る旅となったことでしょう。

【展覧会データ】

展覧会名 | ランス美術館コレクション
風景画のはじまり コローから印象派へ
会 期 | 2021年6月25日(金)～9月12日(日)
主 催 | SOMPO美術館、朝日新聞社
協 賛 | 損保ジャパン
後 援 | 在日フランス大使館、アンスティチュ・フランセ日本
協 力 | 日本航空
企画・監修 | ランス美術館
Exposition produite et gérée par le Musée
des Beaux-Arts de la VILLE DE REIMS
EN FRANCE.
企画協力 | プレントラスト



ジャン＝バティスト・カミーユ・コロー《湖畔の木々の下のふたりの姉妹》1865-70年 油彩・カンヴァス 67.4×47.6cm
Inv. 887.3.82 ランス美術館
©MBA Reims 2019/ Photo: C.Devleeschauwer



美術館入口、外壁フォトスポット

17世紀オランダでひとつの絵画ジャンルとして確立、18世紀には神話や物語の舞台として理想的な姿で描かれた「風景画」。フランス革命や産業革命を経て近代化した19世紀のフランスでは、画家たちは、自



2021年度の鑑賞教育活動

新 宿区立小中学校を対象とした「対話による美術鑑賞教育」支援事業は14年目を迎えました。新たに特別支援学校(新宿養護学校)が加わり、全ての区内公立小中学校を対象とした事業となりました。

2学期末までに小学校11校・中学校5校の鑑賞会を実施し、3学期はコロナ感染状況を確認しながら活動しました。

ボランティアガイドスタッフは昨年度12期生8名、

今年度13期生10名が新たに加わり、総勢81名で活動を行いました。

コロナ禍においては密にならない鑑賞空間、動線を作り出す工夫をし、新美術館でも、安全で円滑な鑑賞会になるよう心掛けています。ガイドスタッフ研修会にオンラインを取り入れ、子どもたちのGIGAスクール構想にも対応できるよう新しい取組に前向きにチャレンジしています。